

令和4年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校 定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと学びあう学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 27 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (1 月 27 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】社会人、不登校経験者、中途退学者、外国籍の生徒など多様な生徒が在籍しており、個々の生徒における課題は多様であるため、実態に応じた指導が必要である。 【課題】基本的な生活習慣を身に付けさせ、ルールやマナーを尊重し、自他に配慮した生活が送れるように指導をしていく必要がある	○中途退学者数を減少させる。 ○コロナ禍を踏まえ、出席状況を改善させる。	○教職員間での個々の生徒の情報共有の内容を充実させる。 ○拠点校としてSSWの積極的活用及びSCとの連携 ○家庭との連携 ○中学校との連携 ○登校時の声掛け指導 ○校内巡回指導 ○家庭との連携 ○出席状況の把握と対応	○中途退学率が前年度より減少したか。 ○出席率が改善したか	○1月末現在の転退学者は7名で、前年度より1名増であった。中途退学者は1名であり前年度同比で3名減少している。 ○1月末で84%の出席率であり、昨年度末(85.6%)に比べて微減している。	B A	○ICTを活用した学習機会の確保は十分行われている。コロナウイルス感染症が引き起こす課題が学校生活に引き続き影響すると考えられるが、課題を抱え、支援が必要な生徒に対し、十分なケアを行いと社会人として自立できるように努めてまいりたい。
2	【現状】落ち着いた環境で授業にきちんと参加する生徒が大多数である。 【課題】生徒の実態を踏まえ、「わかる授業」を展開し、個に応じて社会人として必要な基礎学力を定着させる必要がある。また、外国籍生徒への日本語の定着も必要である。	○授業理解度を向上させる。 ○個々の生徒に応じた指導体制をより効果的なものとする。	○教員相互の授業見学等(年2回以上)による授業改善 ○ICTの活用 ○授業アンケートの実施 ○個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施 ○外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター)の活用	○「授業が理解できている」という回答率が向上したか。 ○外部指導者活用等の効果が認められ、成績不振者が減少したか。	○定期考査ごとに成績会議を開催し、全教員で学習状況・出席状況を共有し、指導改善につなげている。 ○授業アンケートは1月末段階で未実施であるのが課題である。 ○スクールソーシャルワーカーの常駐化によって、支援体制がより手厚くなった。 ○学習サポーター、多文化共生員によって、支援が必要な生徒に、一層目が配れるようになった。	B A	○生徒の現状を職員全体で的確にとらえ、指導に役立っているが、授業アンケートを1月末段階で実施していないため、生徒の理解度についての確かな分析ができていない。 ○来年度から、生徒が自由に機種を選んで導入するBYOD方式でタブレットを導入するので、生徒一人ひとりにきめ細かな支援を行うとともに、教職員の研修の充実に努めたい。
3	【現状】進路未決定で卒業を迎える生徒が少なからず存在する。 【課題】高校4年間で適切かつ健全な勤労意欲や職業観を育成し、進路実現に向けた目的意識を培い、卒業後の進路に関する満足度を今まで以上に向上させる必要がある。また、特別な支援を必要とする生徒の就労支援に関して、支援体制を整備してゆく必要がある。	○個々の生徒に応じた指導を行い、進路決定に繋げる。	○進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施 ○進路指導における総合的な探究の時間の活用 ○人間としての生き方在り方教育、人権教育の実施 ○特別支援教育巡回支援員等と連携しての個別の進路指導計画(就職面接指導・進学補習等)の充実	○進路決定率が向上したか ○特別な支援を必要とする生徒編支援体制を確立したか。	○学校斡旋の就職者は、100%が進路決定ができた。教員の丁寧な指導によって支援を必要とする生徒も進路に対して成果を出している ○進学に関して経済的な事前準備が課題だが、同窓会からのご支援で課題解決の方法を見出すことができた。	A	○進路に対しては教職員間で共有認識ができています。今後は、関係機関との連携や外部機関との協力と共に、進路指導については、継続的な指導のために中堅層に積極的に担ってもらえる体制づくりが課題である。
4	【現状】学校HPなどでのPRで「学び直し」の場としての定時制の意義が定着しつつある。 【課題】本校の教育活動を積極的にPRするとともに、HP等で学校の最新情報提供を定期的・継続的に行ってゆく必要がある。	○中学校・学習支援センター・保護者・児童福祉・教育相談等の関係機関との連携を充実させる。	○個別の学校見学を重視する。 ○中学校訪問等により安易な受検にならないよう丁寧に説明する。 ○特に児童福祉・教育相談等の関係機関との連携に努める。 ○日常的なHP更新に努める	○個別の学校見学実施に伴い、本校定時制教育を理解した上で志願する割合が増えたか。	○個別学校見学は1月末現在で46件で昨年よりも5件増加している。中学校卒業予定者進路状況調査では、希望者が10月1日現在で20名(0.25倍・前年0.13)、12月15日現在で29名(0.36・前年0.24)と微増している。	A	○学校HPの更新が11月以上に停滞してしまったのは課題であり、年間で安定した更新を図りたい。 ○学び直しのイメージは定着し、個別学校見学も増加しつつある。今後は感染状況の推移を見ながら、集団的に学校説明会を行う、学校訪問を再開するなどの取組を行ってまいりたい。

学校関係者評価	実施日 令和5年1月27日
学校関係者からの意見・要望・評価等	生徒個別の情報を共有し、スクールソーシャルワーカーやカウンセラーとの連携の取組が中退者の減少につながっていると推察する。登校時の声掛けや巡回指導など丁寧な指導が行われている。 様々な環境の生徒がいて指導する教職員として難しい面があり、出席状況や中途退学者の状況も一進一退と思われるが、生徒一人ひとりの事情に応じた対応をお願いしたい。 教職員間相互の授業見学やICTの効果的な活用により、授業改善が促進していることがうかがえる。教職員の研修やタブレット活用の支援をきめ細やかに行うことで徐々に効果が上がっていくものと思われる。授業アンケートに関しては各学期に実施するなど、年間を通して授業改善につなげられる取り組みも想定できる。 社会人として活躍できる力を育成することを一層期待する。 学校斡旋による就職率100%は素晴らしい成果だと考える。今後も生徒個別への情報提供や支援を行い、多様なニーズにこたえるべく取り組んでほしい。 経済的な問題で進学をあきらめることのないように学校関係者としても支援してまいりたい。 個別の事情を考慮してきめ細やかな対応がなされていると考える。学校のホームページは定期的に更新しないと見る人が減少してしまう。丁寧な情報発信を心がけることが大切である。中学校には毎年一定数の定時制希望者がいることから、今後も、生徒、保護者向けの定時制に関する情報提供を充実させてほしい。